

様式1

環境モデル都市における平成27年度の取組の評価結果

ニセコ町	人口:4,872人、世帯数:2,338世帯(平成27年3月末現在) 就業人口:2,316人(平成22年度)、市内GDP:93.2億円(平成22年度) 面積:197.13km ² (うち森林面積132.78km ²)
平成27年度の取組の総括	
<p>・人口が増加しており、観光業の業況も良く、基礎的なエネルギー使用量が増えている為、町全体のCO₂排出量は増加傾向にあるが、CO₂削減量については取組の推進により、アクションプランに掲げるCO₂削減見込175tと比較して762tと計画を上回る削減実績をあげることができた。</p> <p>・環境省グリーンプランパートナーシップ事業で観光施設の省エネ設備導入調査事業を行い、観光事業者にCO₂削減の取組に対する理解を深めるとともに、初期投資や投資回収年数などの調査結果を情報提供し、今後の取組につなげることができた。</p> <p>・町内水力発電を持つ新電力会社との協議の結果、電力使用量の多い10公共施設で新電力購入の道筋をつけられたことは大きな一歩となった。</p>	

A：取組の進捗

【参考指標】

4

計画との比較	評点	取組数	点数	評価指数	評価区分	
a)追加/前倒し/深掘り	2	4	8	算定式: ②/① *100	5	130~
b)ほぼ計画通り	1	3	3		4	110~
c)予定より遅れ/予定量に達せず	0	2	0		3	90~109
d)取り組んでいない	-1	0	0		2	70~89
計		① 9	② 11	122	1	~69

(特記事項)

・児童数の増加に伴い、新設した学童保育施設は環境に配慮して、構造材には町産カラマツ、断熱材には木質繊維断熱材を使用し、暖房設備は地中熱ヒートポンプ、換気は地中熱アースチューブを採用することで熱ロスを押さえ、さらに建物全体の断熱強化により徹底した省エネ施設とした。

・予定より遅れている取組の中で、観光事業者の温泉熱利用や農業での雪氷熱利用は、民間事業者の協力・実施が必要なので計画通りに進めることが難しく、次年度はまずは1施設の導入事例をつくり、導入効果の積極的なPRや、勉強会を開催することにより取組を推進する。

・環境モデル都市アクションプランの進捗について審議を行う、「環境審議会」(環境団体、関係事業者、町民、計10名にて構成)の委員を一新し、取組の進捗に対して審議をしたほか、情報共有や普及啓発にも努めた。

・公共施設5カ所に平成23年度から26年度にかけて地中熱ヒートポンプを導入し、冷暖房を行うことによるCO₂削減効果だけではなく、町民、観光客、視察の訪問者が増加して普及啓発につながっているほか、経済的な波及効果も見られる。

B：温室効果ガスの削減・吸収量【平成26年度】

【参考指標】

4

取組による効果	(t-CO ₂)	(前年度比)	温室効果ガスの排出量	(万t-CO ₂)	(前年度比)
温室効果ガス削減量	761	—	H26実績(暫定値)(実排出係数)	6.5	3.2%
			H26実績(暫定値)(排出係数固定)	5.6	1.8%

(特記事項)

・温室効果ガス削減量については、単年度削減見込175t-CO₂と比較し、761t-CO₂と計画を上回る削減実績となった。内訳としては業務部門の「観光施設での省エネの取組み」が最も削減量が多く、観光事業者の取組による効果が大いことが判明した。また、家庭からの再生可能エネルギー売電も削減に寄与していた。

・温室効果ガス排出量については、事業者及び一般家庭へのヒアリングやアンケート結果からなるべく実態に即した積み上げ方式によって算出した結果、6.5万t-CO₂の実績であった。人口が増加しており、観光業も業況が良く、基礎的なエネルギー使用量が増えている為、前年度比0.21万t-CO₂(3%)の増加となった(産業部門の算定にあたり、アンケート調査の回答件数が少なく、比較的多くエネルギーを使用している事業者の回答から全体を推計しているため、実際より多い可能性がある)。今後はエネルギー源の転換など抜本的な対策が必要だと考えられる。

C : 地域活力の創出

【参考指標】

5

町民センター利用者数	57,695人	雪氷熱米倉庫入庫	21,302俵
有島記念館来館者数	10,455人		
ラジオニセコ出演者数	約300人		
グループホーム利用者	18床		
観光客数	約1,693,000人		
外国人宿泊者延数	177,012人		
地下水保全条例に基づく届出	3件		

(特記事項)

・地中熱ヒートポンプが導入された施設はいずれも多くの町民や観光客が訪れる場所であり、過去に改築を行った町民センターについては利用者が年々増加しており、改築前の平成22年度と比較すると24千人→57千人で33千人の増加となっている。

・ニセコエリアの良質なパウダースノーなど豊かな自然環境についてのロコミや多言語による積極的な情報発信により、観光客数は前年度比1.5%増となった。特に外国人宿泊延数は2003年から10倍以上に伸びている。国別で見ると香港、オーストラリア、台湾の順に多い。

D : 地域のアイデア・市民力

【参考指標】

4

環境審議会回数	2回	デマンドバス利用件数、利用者数	15,601件、19,389名
環境講演会(2回)延参加者	113人	EV充電設備新設箇所	3箇所
川に学ぶ体験活動全国会議in尻別川参加者数	延319人	プラチナシティ	認定
ごみリサイクル率	92.1%(RDFを除くと49.5%)		
まちづくり町民講座回数	9回		
まちづくり町民講座延参加者	382人		
グリーン電動アシスト自転車利用	252台		

(特記事項)

・環境講演会を2回開催した。第1回は藻谷浩介氏を講師に招き、80名が参加した。今後ニセコ町が豊かな環境を維持し存続するためには、いかに地域資源を地域内で循環させるかが重要であり、経済と環境を両立させることの意義や方法についての理解を深めた。第2回は外務省地球環境問題大使である堀江正彦氏を講師に招き、33名が参加した。世界レベルでの貧困や環境問題を踏まえて「万人のための持続可能なエネルギー」についての理解を深めた。

・NPO法人しりべつリバーネット共催による「川に学ぶ体験活動全国会議in尻別川」がニセコ町で開催され、全国から2日間で延べ319人の参加があった。川をめぐる環境について全国から関係者が集い、事例学習及び情報交換を行った。

・まちづくり町民講座を9回開催した中で、地方総合戦略を策定するための町民講座を5回開催した。総合戦略は「町民が環境を生かす町」をテーマに「環境モデル都市アクションプラン」を取り入れた内容となった。

・今までの無料レンタサイクルグリーンバイクをリニューアルして㈱ニセコリゾート観光協会が「グリーンバイクプラス」として有料の電動アシスト自転車の貸し出しをはじめた。電動アシスト自転車は延べ252台の利用があった。

・ニセコ町まちづくり基本条例に基づく、長年の「情報共有」と「住民参加」のまちづくりが評価され、地域の課題解決に向けた先進的な取り組みを表彰する「プラチナ大賞」でニセコ町の「住民自ら考え行動する」住民自治によるまちづくりが優秀賞を受賞。道内自治体では初の受賞となり、併せて「プラチナシティ」に認定された。

E : 取組の普及・展開

【参考指標】

4

環境関係視察者	43人		
JICA関係視察者	19人		

(特記事項)

・ニセコ町役場には40団体、309人の視察があったが、そのうち環境モデル都市や再生可能エネルギーに関する視察者は9団体、43人であった。特に、ニセコ町のホームページに掲載されている環境モデル都市の英語版パンフレットを見て、タイ国の政府機関である温室効果ガス管理機構から17名もの視察があり、海外からも注目を集めている。

・JICAの研修生として訪問した中南米16名、南アフリカ共和国3名に対してニセコ町の環境モデル都市の取組などについて周知することができた。

(平成27年度の取組の評価する点とそれを踏まえた平成28年度以降に向けた課題)